

静岡県医療健康産業研究開発センター
指定管理者評価委員会 評価結果

静岡県経済産業部 産業革新局新産業集積課

1 開催方法
書面開催

2 指定管理者名
公益財団法人 ふじのくに医療城下町推進機構

3 指定期間及び評価対象期間

指定管理期間	平成 30 年4月1日～令和3年3月 31 日(3年)	
対象期間	年次評価	平成 31 年4月1日～令和2年3月 31 日(1年)
	期間評価	平成 30 年4月1日～令和2年3月 31 日(2年)

4 評価手順

- (1) 指定管理者による実績報告(書面)
- (2) 質疑応答(書面)
- (3) 委員の採点による評価

5 評価委員会委員

区分	氏名	役職	備考
委員長	廣部 雅昭	東京大学名誉教授(元静岡県立大学学長)	有識者
委員	岩城 徹雄	一般財団法人アグリオープンイノベーション機構 専務理事兼事務局長	有識者
委員	竹村 祐輔	中小企業診断士	有識者
委員	戸畑 温子	サンスター株式会社	施設利用者
委員	西山 信司	ヤザキ工業株式会社	施設利用者

6 評価結果

(1) 年次評価

平均点	総合評価	総合評価区分	評価得点率	摘要
83.2点	良	優	最高点の85%以上	大いに評価できる
		良	70%～85%未満	評価できる
		可	50%～70%未満	普通
		要改善	50%未満	改善を要する

区分	項目	評価の視点	配点	平均点
基本的 事項	設置目的の達成	・数値目標と実績(事業化)	10	8.4
		・ " (共同研究)	10	9.2
		・ " (交流ホール・会議室)	5	3.4
管理運営 状況	職員配置、教育研修体制	・職員配置、教育研修は適正に行われているか	5	4.6
	危機管理体制の構築	・入居者と連携した体制が整っているか	15	13.2
		・必要なマニュアルの作成がされているか		
		・訓練等によりマニュアルの有効性を確保しているか		
トランプルや苦情への対応	・定期的な確認等により予防対策がなされているか	5	3.8	
サービス 向上、利 用増進	入居者支援事業の実績	・対応は迅速かつ適切に実施されたか	5	4.2
	連携、交流事業の実績	・事業化又は共同研究を促進し、効果が認められる ものであったか	15	12.6
	会議室の利用率向上	・地域を含め、オープンイノベーションを促すものか	15	12.6
	利用者サービスの実績	・利用率向上に向けた取組みはされているか	5	3.2
経営状況	収支実績	・常設展示場など適切な運営が行われているか	5	3.6
		・収支計画及び実績は妥当か ・効率的な管理を行っているか	5	4.4
合 計			100	83.2

○委員コメント（主な助言事項・意見）

- ・ 事業全体は順調に進捗していると評価できる。
- ・ 入居企業と財団と一体となった連携・交流の取組が結果的に入居者の繁栄や地域経済への貢献に寄与する。「医療城下町」の形成にあたって、地域との交流が重要な鍵であり、充実を期待する。
- ・ 県の施設であり、危機管理の点でBCP計画を是非、作成すべきである。BCPは防災マニュアルではなく、災害時においても事業継続を進めるための「戦略策定」である。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、会議室などサービス事業への影響があったが、対応策については評価したい。交流ホール稼働率の業況が厳しい。コロナ禍における今後の稼働率向上施策に期待したい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、目標値の見直しも視野に入れ、検討してはどうか。

(2) 期間評価

平均点	総合評価
88.0点	優

総合評価区分	評価得点率	摘要
優	最高点の85%以上	大いに評価できる
良	70%～85%未満	評価できる
可	50%～70%未満	普通
要改善	50%未満	改善を要する

区分	項目	評価の視点	配点	平均点
基本的事項	設置目的の達成	・数値目標と実績(事業化)	10	8.4
		・ " (共同研究)	10	9.2
		・ " (交流ホール・会議室)	5	3.6
管理運営状況	職員配置、教育研修体制	・職員配置、教育研修は適正に行われているか	5	4.6
	危機管理体制の構築	・入居者と連携した体制が整っているか	15	13.8
		・必要なマニュアルの作成がされているか		
		・訓練等によりマニュアルの有効性を確保しているか		
定期的な確認等により予防対策がなされているか	5	4.4		
トラブルや苦情への対応	・対応は迅速かつ適切に実施されたか	5	4.6	
サービス向上、利用増進	入居者支援事業の実績	・事業化又は共同研究を促進し、効果が認められるものであったか	15	14.4
	連携、交流事業の実績	・地域を含め、オープンイノベーションを促すものか	15	13.2
	会議室の利用率向上	・利用率向上に向けた取組みはされているか	5	3.4
	利用者サービスの実績	・常設展示場など適切な運営が行われているか	5	4
経営状況	収支実績	・収支計画及び実績は妥当か ・効率的な管理を行っているか	5	4.4
合計			100	88.0

○委員コメント(主な助言事項・意見)

- ・ 期間全体として当初の目標は概ね達成しており、評価したい。
- ・ 共同研究の技術化・製品化や具体的な事業化が、ファルマバレープロジェクト全体の高(好)評価に直結する。今後も充実した支援を期待する。
- ・ 連携・交流において、オープンイノベーションのきっかけ数が増加すれば、入居・支援対象企業が活気づくのではないか。
- ・ 収益を確保するために人件費削減に取り組み、その中で成果を挙げる努力は大いに評価する。
- ・ 新型コロナウイルス感染症により、今後、長期にわたり、事業に少なからぬ影響が出ることは必至である。社会の仕組みが変わっていく中で、入居者や来場者、地域社会の満足度が上がるよう、Web 会議システムの利用など、ハード・ソフト両面にわたる根本的な対策を講じることが喫緊の課題である。